

可児市子どもの読書活動推進計画

(第4次：改訂版)

読書好きな子どもたちになるように
社会全体で取り組むまち、可児
～新しい時代に必要とされる人材を育成するために～



令和5年10月
可児市

目次

1. 策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 第3次計画における成果と課題・・・・・・・・・・・・ 2
3. 第4次計画の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
4. 子どもの読書活動の推進のための方策・・・・・・・・ 15

(5. 資料 → 変更なし)



可児市子どもの読書活動推進計画

1. 策定の趣旨

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。そのためにも社会全体で子どもの読書推進を図っていくことの重要性が認識され、国は平成13年（2001年）12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行し、同法に基づいて、平成14年（2002年）8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、その後平成30年（2018年）4月に「第四次計画」を策定しています。

また、岐阜県においても平成27年（2015年）3月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第3次）」を策定しています。

本市では、推進法第9条第2項の規定に基づき、平成18年（2006年）3月に「可児市子どもの読書活動推進計画（第1次）」を策定し、家庭、地域、図書館、学校、幼稚園・保育園でさまざまな取り組みを進めてきました。その後、平成23年（2011年）3月に「第2次計画」、平成28年（2016年）3月に「第3次計画」を策定し、市内の子どもたちの読書推進を図ってきました。

このたび、第3次計画が令和元年度をもって満了するため、これまでの成果と課題を整理し、国や県の計画内容を踏まえ、本市の各関連計画や施策と整合性を図り、子どもの読書活動を総合的・計画的に推進するため、「可児市子どもの読書活動推進計画（第4次）」を策定します。

2. 第3次計画における成果と課題

①家庭における子どもの読書活動の推進

主な成果

- ◆乳幼児学級において図書館職員が読み聞かせを行い（平成30年度2回）、保護者に対し読書の必要性を啓発することができました。
- ◆「赤ちゃん絵本事業」（※1）では、新規登録者数と貸出し冊数が増え、保護者に読書への関心を持たせることができました。

【赤ちゃん絵本事業】

	参加人数	新規登録者数	貸出冊数
平成26年度	845人	298人	707冊
平成28年度	791人	300人	707冊
平成30年度	752人	348人	800冊

- ◆図書館ではホームページや「すぐメールかに」（※2）を使って情報発信をするとともに、「かにっ子だより」（※3）等の情報紙を配布し、啓発することができました。
- ◆「マタニティ・サロン」（※4）や「パパママ教室」（※5）で読書啓発のチラシを配布し、「マイナス10カ月」（※6）から読書を習慣にする大切さを啓発することができました。

（※1）「赤ちゃん絵本事業」

保健センターで行われる4カ月健診に合わせて、図書館職員とボランティアで、絵本の紹介、図書館の利用案内、貸出を行うもの。

（※2）「すぐメールかに」

暮らしに役立つ市政情報の中から希望する情報を携帯電話などに配信するサービス。

（※3）「かにっ子だより」

小学生向けと幼児向けの2種類。絵本の紹介と図書館行事の案内を掲載し、関係施設に配布。その他に、「ちびっこかにっ子だより」は、乳児の保護者向けに絵本の紹介と図書館行事の案内を掲載し、赤ちゃん絵本事業にて配布。

（※4）「マタニティ・サロン」

妊婦を対象にした講話や妊婦同士の交流を行う教室。

（※5）「パパママ教室」

妊婦とその夫を対象としたこれから親になる夫婦のために、講話や赤ちゃんのお世話の実技を学ぶ教室。

（※6）「マイナス10カ月」

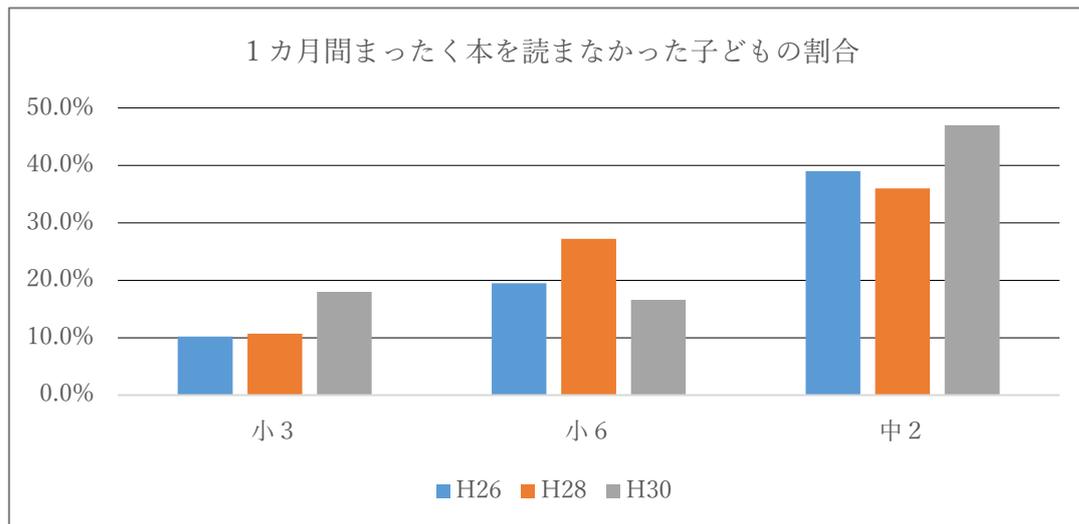
子育ては子どもが生まれてから始まるのではなく、お腹の中に宿ったとき（マイナス10カ月）からすでに始まっていることに重点を置き、そのときから子どもと子育てが地域・社会とつながり、子育ての大切さを学び、みんなで子育てに関わっていくという市の取組。

現 状

◆「うちどく（家読）10通帳」（※7）を図書館に常備し、毎年4月に新中学1年生に配布しましたが、通帳記入がいっぱいになっても新しい通帳を取りに来る子どもが少なく、あまり「うちどく（家読）10通帳」の利用が定着していません。

◆可児市子どもの読書に関するアンケートによると、家で本を読まない子が増えている傾向があり、特に中学生になるとさらに多くなります。

【可児市子どもの読書アンケートから】



- 読まない理由
- ・小3 時間がない。読みたい本がない。読むのが面倒。
 - ・小6 読みたい本がない。時間がない。
 - ・中2 時間がない。読みたい本がない。読むのが面倒。

学年が上がるごとに読まなかった子どもが増えているのは、学校授業以外にクラブ活動や塾等があり、余暇の時間がないことも影響しています。また、スマートフォンの普及やそれを活用したSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等のコミュニケーションツールの多様化などが、大きな影響を与えていることが考えられます。

（※7）「うちどく（家読）10通帳」

うちどく（家読）10運動は、本をコミュニケーションツールとして家族で本を読み、読んだ本で話し合いをしようというもので、10は、「1カ月に家族合わせて10冊以上の本を読む」「1年にひとり10冊以上読む」「毎日家族で10分以上本を読む」等、目標を決めて取り組むことを意味している。その通帳は、読んだ本を記録し、50冊読んだら認定証を図書館が発行するシステムとなっている。

課題

- 家庭教育学級での読書啓発は行われていないことから、開催を働きかけていく必要があります。また、乳幼児学級での開催回数も少なく、同様に働きかけが必要です。
- 情報発信の方法については、より多種多様となるよう、新たなやり方を採用していく必要があります。
- 「うちどく（家読）10 通帳」について、利用状況を把握し、より多くの子どもたちに活用してもらうよう工夫が必要です。
- 本を読まない子どもへの対応としては、家庭での対応だけでなく、地域や図書館、学校、幼稚園、保育園が相互連携し、取り組んでいくことが必要です。

②地域における子どもの読書活動の推進

主な成果

- ◆児童センター、地区センター、「キッズクラブ」（※8）において、図書館の「リユース本」（※9）を毎年活用することで、図書コーナーを充実することができました。

【リユース本配布数】

	児童センター	地区センター	キッズクラブ	計
平成 26 年度	16 冊	73 冊	106 冊	195 冊
平成 28 年度	13 冊	70 冊	129 冊	212 冊
平成 30 年度	20 冊	44 冊	142 冊	206 冊

- ◆図書館の「団体貸出」（※10）について、読み聞かせボランティア団体やキッズクラブ等が利用し、読み聞かせに活用することができました。
- ◆各施設において、ボランティアが読み聞かせを行いました。令和元年度には、図書館主催による読み聞かせ講座を開催し、ボランティアを含む市民が受講生として参加し、技術向上を図りました。

（※8）「キッズクラブ」

「学童保育」「放課後児童クラブ」とも呼ばれ、働く親への支援を目的に、児童の放課後の生活と遊びの場として校内の専用施設で児童を保育する。

（※9）「リユース本」

図書館において除籍した本で、市民に無料で提供した本のことをいう。

（※10）「団体貸出」

読書グループや学校などの団体に対し、最大 200 冊、2 ヶ月間貸出するサービス。

◆平成30年9月から「子育て健康プラザ マーノ」(※11)の中にある中央児童センターに図書館職員が出向き読み聞かせを行い、新たな場所で読書啓発を行う機会を作りました。実施回数7回、参加人数130人。

◆平成31年1月から図書館がキッズクラブへ「気軽に使える絵本パック詰めサービス」(※12)を始め、多くの子どもたちが絵本に接する機会を増やすことができました。

課題

- 図書館のリユース本を活用していない施設に対し、活用を促していく必要があります。
- 図書館の団体貸出を活用していない施設に対し、貸出方法等を検討していく必要があります。
- 「気軽に使える絵本パック詰めサービス」の対象がキッズクラブのみのため、各施設への拡大を図る必要があります。
- 地域にある各施設の関係者と図書館が、読書活動の推進といった面での方策について協議を行い、施設の環境整備を進める必要があります。

③図書館における子どもの読書活動の推進

主な成果

◆年齢に応じた児童書の選書を行い、読み聞かせに必要な絵本や紙芝居を始め、中高生向けの書籍や障がい児、外国籍児童・生徒向けの書籍を収集しました。

◆夏休みイベントを開催することによって、夏休み期間中、大勢の子どもたちが図書館を訪れ、読書に親しむことができました。また、本館において7月に絵本ライブ、12月に人形劇、2月に「探検ゲーム」(※13)を開催し、大勢の子どもたちに図書館を訪れる機会づくりとなりました。

(※11)「子育て健康プラザ マーノ」

可児駅前にある子育て支援・健康づくりのための機能を集約した施設。保健センター、親子サロン「絆(きつずな)る〜む」(※14)、中央児童センターなどがある。

(※12)「気軽に使える絵本パック詰めサービス」

図書館が選んだ絵本や紙芝居をパックにして、図書館職員が各キッズクラブをローテーションさせて配達するもの。

(※13)「探検ゲーム」

問題を解きながら、そのヒントを手掛かりに本を探し出すというもの。

(※14)「絆(きつずな)る〜む」

3歳未満のお子さんを子育て中の保護者の方々に、安心して遊ばせることができ、保護者同士の交流ができる施設。

【夏休みイベント参加人数】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
夏休みおはなし広場	88 人	107 人	100 人	90 人
カンタン絵本づくり	38 人	21 人	32 人	34 人
夏休み手作り工作講座	45 人	28 人	32 人	37 人

◆「こどもの読書週間」(※15)にちなんで、イベントや展示をして読書啓発を行いました。また、「かにっ子だより」や「ちびっこかにっ子だより」を毎月発行し、本の紹介や行事のお知らせを行いました。

◆「かにっ子タイム」(※16)の参加者は減少傾向でしたが、チラシ配布等、PRに努めた結果、平成30年度は増加しました。

【かにっ子タイム参加人数】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
かにっ子タイム	1,778 人	1,738 人	1,651 人	1,841 人

◆「赤ちゃんタイム」(※17)を行い、乳幼児への読書推進を図ることができました。

◆「赤ちゃんと絵本事業」は新規登録者数、貸出冊数とも増加し、乳児の保護者への啓発の効果が出ました。(再掲)

◆ホームページに「こどもページ」を設け見やすくするとともに、「すぐメールかに」から図書館情報を発信し、簡単に情報が入手できるようにしました。

◆図書館を始め各施設において、ボランティアによる読み聞かせを行い、子どもたちに読書の楽しさを伝えました。令和元年度に読み聞かせ講座を開催し、現在ボランティアとして活躍している方も受講し技術向上を図りました。(再掲)

◆中高生の利用が増えるように「ヤングアダルト」(※18)コーナーを設け本を借りやすくし、随時、テーマを変えておすすめ本の展示をしました。

(※15)「こどもの読書週間」

公益社団法人 読書推進協議会が主催。毎年4月23日から5月12日を「こどもの読書週間」とし、こどもの読書推進のため、読書に関する行事を行う。

(※16)「かにっ子タイム」

毎週土曜日午後2時から小学校低学年までの子と保護者を対象にボランティアによる読み聞かせ等を行う。

(※17)「赤ちゃんタイム」

乳幼児を連れた保護者が、ゆっくり読みたい本を選んだり新規登録等ができるよう、ボランティアが乳幼児を預かるサービス。

(※18)「ヤングアダルト」

だいたい13歳から19歳の読者層のことをいい、ヤングアダルト文学は、児童文学から文学一般へいく中間の位置にある文学。

◆「パック詰めサービス」(※19)は小・中学校や保育園で利用されました。また、学校司書会議でそのサービスのあり方の協議を行い、積極的に利用されたため、平成30年度には大幅に利用が増えました。

【パック詰めサービス利用について】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
貸出団体	20団体	26団体	23団体	36団体
貸出冊数	551冊	781冊	630冊	1,121冊

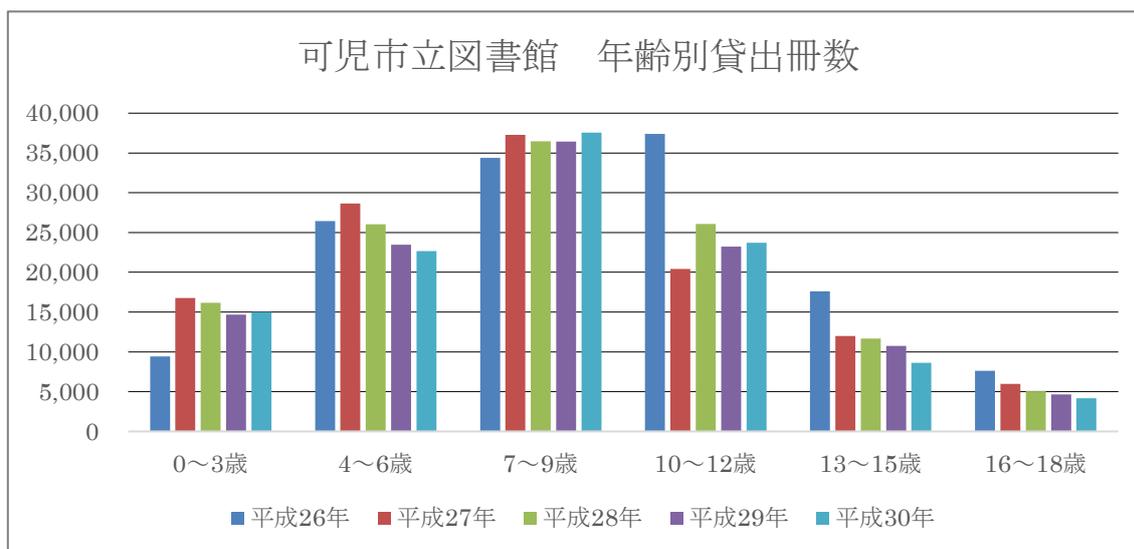
◆平成31年1月から「気軽に使える絵本パック詰めサービス」をキッズクラブ対象に開始し(7カ所)、児童の保育に役立てられました。

◆各関係機関とは、チラシやポスターの掲示について相互協力を行いました。また読み聞かせの派遣や団体貸出、リユース本の活用など連携を図りました。

◆令和元年7月、「岐阜医療科学大学図書館と相互協力の覚書」(※20)を結びました。書籍の相互貸借を始め大学との連携により読書推進が図られることが今後期待できます。

◆子どもの読書活動に関するアンケートを毎年実施し、現状を把握しました。

現 状



◆図書館での子どもの貸出冊数は、小学校低学年を除きどの年齢でも減少傾向です。特に小学校高学年から中学生にかけての減少が顕著です。

(※19)「パック詰めサービス」

小中学校を対象に授業等のテーマに合わせてパック詰めにした本を貸出すもの。

(※20)「岐阜医療科学大学図書館と相互協力の覚書」(令和元年7月30日締結)

図書相互貸借を始め、情報交換、情報発信、相互交流、連携講演会等を実施する。

また、高校生の貸出冊数も少ない状況です。図書館自体がもっと魅力ある存在となり、図書館離れを防ぐ手立てを考える必要があります。

◆「ちびっこかっこ子タイム」(※21)の参加者数は増加傾向でしたが、平成30年度は減少しました。「絆(きつずな)る一む」で読み聞かせが開始されたことが影響しました。

【ちびっこかっこ子タイム参加者数】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ちびっこかっこ子タイム	1,130人	1,167人	1,229人	968人

◆「移動図書館」(※22)で各小学校を月1回訪問し貸し出しを行いましたが、状況としては、貸出冊数は減少の傾向があります。移動図書館に関する情報提供、PR不足が原因です。

【移動図書館貸出冊数】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
移動図書館貸出冊数	13,476冊	12,713冊	10,947冊	9,703冊

課 題

- 児童書等の選書において、関係団体等からの利用を増加させるため、関係団体等からの要望を取り入れる仕組づくりが必要です。
- 子どもたちが本を探しやすいような仕組づくりが必要です。
- イベントを開催することによって、子どもたちの図書館利用が増えるため、新たなイベントを企画していく必要があります。
- 情報発信の方法については、さらに広く多くの市民に伝えるため、新たなやり方を検討していく必要があります。
- 「ちびっこかっこ子タイム」について、利用者へのPRをさらに行う必要があります。
- 令和元年度に開催した読み聞かせ講座を今後も継続し、各施設のボランティアの技術向上を図る必要があります。同時に新たなボランティアを養成していく必要があります。また、各施設間のボランティアの交流がさらに進むような働きかけが必要です。
- 中高生の利用は減少傾向にあり、これをくい止める対策を講じる必要があります。
- 電子書籍については、その有効性が評価されてきており、導入に向けて計画的に進めていく必要があります。

(※21)「ちびっこかっこ子タイム」

定期的に幼稚園等入園前までの子と保護者を対象に、ボランティアによる読み聞かせ等を行う。本館では、合わせて、始まる前と後の30分間、「赤ちゃんタイム」を実施する。

(※22)「移動図書館」

移動図書館「ひまわり号」に2,500冊を積んで月に1回、小学校を始めとする公共施設等、市内31箇所を巡回し貸出をする。

●「パック詰めサービス」を広く利用してもらうため、各関係団体とサービスのあり方に関し協議を行う必要があります。また「気軽に使える絵本パック詰めサービス」は、キッズクラブ7カ所だけのため、対象団体を拡大していく必要があります。

●移動図書館の利用者を増やすため、各学校と連携し、子どもたちへの情報提供が十分に行われる工夫が必要です。また、移動図書館の車両の老朽化が懸念され、使用できなくなった場合の対応策の検討が必要です。

●各関係機関との連携については、情報共有の点で十分に相互の利活用が行われておらず、さらに連携を密にする必要があります。特に、学校との連携においては、調べ学習を始めとする各種学校事業を支援する体制づくりが求められます。また、岐阜医療科学大学との連携については、大学生による絵本の読み聞かせ等の各種取組を進めるよう協議を継続していく必要があります。

●子どもの読書活動に関するアンケートについては、調査内容を見直し、対象者を増加させることで、より実態把握を正確なものにする必要があります。

④学校における子どもの読書活動の推進

主な成果

◆すべての小中学校において、図書館の資料を使った「調べ学習」(※23)を行い、関連本を紹介して「並行読書」(※24)を勧めました。また、年齢に応じた図書の学級文庫を設置し本の紹介をしました。

◆「朝読書」(※25)は、すべての小中学校において実施しました。さらに朝読書以外での読書活動について、各校で様々な取組を行いました。

(※23)「調べ学習」

テーマに沿って情報を収集し、それをよく読み込んだうえで、自分の考えと結び付けて発展させ、読み手にわかりやすいようにまとめて作品にすること。

(※24)「並行読書」

教科書教材の学習中に教材以外の本を読書すること。児童・生徒に本と触れる機会を多く与えるとともに、様々なジャンルの本を読むことによって、より多くの知識やものの見方、考え方を身につけるといった側面をもつ。

(※25)「朝読書」

小・中・高等学校において、読書を習慣づける目的で始業時間前に全校生徒が一斉に読書を行うこと。

【朝読書以外での読書活動を実施している学校】

	平成 26 年度	平成 30 年度
小学校	20%	50%
中学校	0%	20%

(市内小学校 12 校 公立 11 校・私立 1 校、中学校 5 校)

◆ほぼすべての小学校において、地域ボランティアや PTA の役員による読み聞かせを実施しました。

◆各校、創意工夫した内容で、読書に関する行事を「図書館祭り」(※26)や「読書週間」(※27)に実施しました。

◆学級文庫については、すべての小中学校で設置されており、図書館のリユース本の活用や学級間で本を回すなど工夫を凝らして運用しました。

◆司書教諭と学校司書の協力の連携のもと、読書推進活動が実施されました。また、学校司書研修を毎月図書館本館にて開催し、情報交換と技術向上を図りました。

現 状

◆図書館と学校図書館との連携において、平成 30 年度は、パック詰めサービス 18 件、団体貸出 19 件の利用がありましたが、リユース本の利用はありませんでした。

課 題

●調べ学習を始めとする各種学校事業に関連する書籍について、図書館と連携を密にし、図書館の団体貸出等のサービスを活用する体制づくりが必要です。

●学級文庫の充実のため、図書館のリユース本を活用していく必要があります。

●小学校における読み聞かせがさらに充実するように、ボランティアの技術向上を図る必要があります。

(※26)「図書館祭り」

各小中学校において独自に読書に関するイベントを企画し開催している。

(※27)「読書週間」

公益社団法人 読書推進協議会が主催。毎年 10 月 27 日から 2 週間を「読書週間」とし、読書の普及のため、読書に関する行事を行う。

⑤ 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進

主な成果

- ◆絵本や紙芝居について、定期的に園で購入したり、保護者会のバザーの売上げで購入したりして、蔵書の充実を図りました。
- ◆読み聞かせについては、すべての園で定期または随時に実施しました。

【読み聞かせを実施している園】

	平成 30 年度
毎日行っている	83%
月 2 回行っている	11%
月 1 回行っている	6%

- ◆保護者への絵本の貸し出しをすべての園で実施しました。親子で選び、家で絵本タイムをつくって読み聞かせを行いました。
- ◆定期的に保護者やボランティアによる読み聞かせを実施しました。

現 状

- ◆図書館との連携において、平成 30 年度は、団体貸出 2 件、リユース本の利用は 1 件でした。パック詰めサービスの利用はありませんでした。

課 題

- 園の図書等の充実のため、図書館の団体貸出、パック詰めサービス、リユース本の活用を促進していく必要があります。
- 園における読み聞かせがさらに充実するように、ボランティアの技術向上を図る必要があります。

3. 第4次計画の考え方

3-0. 計画策定時(令和元年度)以降の 状況の変化

第4次計画は 計画期間を 令和2年度～令和5年度 までの4年間としていますが、計画期間の最終年度に 市が創設した公民連携の新たな取り組みにより 図書館新分館の開設が急ぎよ進められることとなりました。

この「新分館の活用」については 新たに策定する計画の最重点事業と考えますが、現時点 (R5.9) では施設の整備計画があるだけで、開設すれば既存図書館と異なる利用者層の発掘や 新たな利用形態が見受けられることが想定されますが、その根拠(市民の反応や目標数値)を示すことが困難な状況です。

したがって第4次計画の終期を1年延伸し、令和6年度までとすることにより、その間に蓄積される新分館の利用実績や傾向、既存図書館との差異、新しく導入するAI活用の成果などを反映させ、より実効性のある計画とすることとします。

3-1. 求められる子どもたちの姿

国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」基本の方針の中には、求められる子どもたちの姿として次のようなことが挙げられています。

- ・ 様々な変化に積極的に向き合う。
- ・ 他者と協働して課題を解決する。
- ・ 様々な情報を見極め新たな価値につなげていく。
- ・ 複雑な状況変化の中で目的を再構築できる

これらのことを達成するために、読書が有効であるとしています。読書は、読解力・想像力・思考力・表現力を養い、多くの知識を得たり、多様な文化を理解することができます。そして読書を進めるうちに、学ぶ楽しさや知る喜びを味わうことができます。結果として更なる探求心や真理を求める気持ちが培われます。

このようなことから、子どもたちが読書をするのが大切であり、読書活動を推進していく必要があります。

3-2. 目標

読書好きな子どもたちになるように社会全体で取り組むまち、可児
～新しい時代に必要とされる人材を育成するために～

3-3. 基本方針

(1) 読書好きになる環境づくり

読書好きになるためには、周りの環境が大切であることから、4つの分野について環境づくりを行っていきます。

①人について

読書に直接関係する司書、図書館職員、教師、読み聞かせボランティアが、さらに知識や技術の向上をめざし研修や情報交換を行うようにします。

また保護者について、その読書の必要性を啓発し、子どもとともに読書に親しむよう協力を求めています。

②場所について

図書館、学校図書館、各施設にある図書室や図書コーナーについて、蔵書数や蔵書の種類、読書をする場所、読むためのシステム等を読書活動推進に向けて整備をしていきます。

③機会について

子どもの発達段階に合わせた取組を行います。各施設での絵本の読み聞かせや小中学校での朝読書、そして読書イベントなど読書の機会づくりに取り組んでいきます。

④相互連携について

家庭、地域、図書館、学校、幼稚園・保育園との相互連携により相乗効果を生み出すよう取り組んでいきます。

(2) 啓発

多くの子どもたちや関係者の目に触れるよう、また簡単に知ることができるよう各種の情報発信を行い、基本方針（1）について啓発していきます。

3-4. 計画推進の方策

基本方針に基づき具体的に計画を推進していくうえで、次の5つを取組の方策として示します。

- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 地域における子どもの読書活動の推進
- (3) 図書館における子どもの読書活動の推進
- (4) 学校における子どもの読書活動の推進
- (5) 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進

3-5. 対象

マイナス 10 カ月～高校生（おおむね 18 歳）

3-6. 期間

令和 2 年度（2020 年）～令和 6 年度（2025 年）の 5 年間

3-7. 指標

取組の評価をするため、指標を挙げ現状値と 5 年後の目標値を定めます

4. 子どもの読書活動の推進のための方策

4-1. 家庭における子どもの読書活動の推進

乳幼児期に家庭で親や身近な人から心をこめて本を読んでもらうことは、幼い子どもにとってとても楽しみなことであり、絵本を通して深まる親子のふれあいは、子どもの情緒の安定や言葉の発達など、豊かな子どもの心を育むために大切なことです。

保護者が読書に親しみ、家族で子どもとともに本を読み、読書を通して家族で感じたことや考えたことを話し合う、そのような家庭をめざします。

	取 組	内 容
1	家庭教育学級、母子保健事業などでの読書のすすめ	<p>①乳幼児学級や家庭教育学級に対し、家庭での絵本の読み聞かせが重要なことを啓発するため、図書館司書による講座の開催を呼びかけます。</p> <p>②毎月保健センターの乳児健診時に図書館職員及びボランティアによる「赤ちゃん絵本事業」を行います。</p>
2	各種情報発信による読書啓発と「うちどく（家読）10」運動の推進	<p>①情報発信について、従来の図書館のホームページや「すぐメールかに」、情報紙「かにっ子だより」等の他、SNS等の使用、ポスターやチラシを公共施設等に掲示することにより周知を図ります。</p> <p>②家庭での読書を推進するため、「うちどく（家読）10通帳」を図書館に常備するとともに、毎年4月に新中学1年生全員に各学校を通じ配布します。また、通帳がさらに活用されるように、読んだ冊数により段階的に表彰する等、運用方法を見直し、「うちどく（家読）10」運動についてもポスターの掲示等で啓発を強化します。</p> <p>●うちどく10通帳記入50冊達成件数 平成30年度 不明 令和6年度（5年後）目標値 50件</p> <p>●1カ月間の不読率 平成30年度 現状値 小学生20%、中学生47% 令和6年度（5年後）目標値 小学生10%、中学生40%</p> <p>●1カ月間の一人あたりの読書冊数 平成30年度 現状値 小学生12.4冊、中学生6冊 令和6年度（5年後）目標値 小学生15冊、中学生8冊</p>
3	マイナス10カ月からつなぐまなぶかかわる子育て支援となる読書機会の提供	保健センターで実施している「マタニティ・サロン」や「パパママ教室」で「これからパパ・ママになるあなたへのおすすめ本」を掲載した図書館の利用案内チラシを配布していきます。

4-2. 地域における子どもの読書活動の推進

子どもは家庭だけでなく、地域の人達の繋がりの中で子どもたちが育つ環境をつくるのが大切です。地域の児童センター、児童館、地区センター等の施設において、保護者や地域の人々がボランティアとして子どもの読書活動を推進し、地域みんなで子どもたちを育てていきます。

児童センター、児童館、地区センター、キッズクラブ、絆（きつずな）る～む等、図書コーナーのある施設では、次のとおり取組みを行うことによって、児童書の充実を図り、読書環境の整備を行います。

	取 組	内 容
1	図書館のリユース本を活用した図書コーナーの充実	地域にある各施設の図書コーナーに、図書館のリユース本を置き、児童書の充実を図ります。
2	図書館の団体貸出サービスを活用	各関係団体に対し、図書館の団体貸出サービスについてPRを行い、有効利用することにより、児童書の充実を図ります。 ●団体貸出冊数 平成30年度 現状値 2,453冊 令和6年度（5年後）目標値 10,000冊
3	地域のボランティアによる読み聞かせや催事の実施	地域のボランティアの協力により読み聞かせや読書を楽しめる機会を充実します。またボランティアに図書館が実施する読み聞かせ講座への参加を促します。
4	子育て健康プラザ マーノと図書館の連携	子育て健康プラザ マーノと図書館は、双方の利点を生かした相互利用の連携を図ります。 ①中央児童センターや絆（きつずな）る～む、保健センターにおいて、図書館のボランティア等の派遣による読み聞かせを実施します。 ②各施設において、相互の利用案内を紹介し利用者拡大を図ります。
5	気軽に使える絵本パック詰めサービスの実施	図書館で選んだ絵本や紙芝居をパック詰めにして、キッズクラブを始め地域の各施設へ配達して貸出します。 ●絵本貸出冊数 平成30年度 現状値 7カ所 882冊 令和6年度（5年後）目標値 30カ所 7,000冊
6	各関係施設と図書館との連携・協力	地域にある各施設の関係者と図書館が、相互の図書関連事業の内容を理解し合った上で、図書館のサービスの活用方法を協議する場を設けます。

4-3. 図書館における子どもの読書活動の推進

図書館は、生涯にわたって人が豊かに生きていくための読書や学習を保障する場所です。子どもにとって図書館は、自分の読みたい本を豊富な図書の中から自由に選び読書の楽しみを知ることができる場所であり、保護者にとっても子どもに読ませたい本を選んだり、子どもの読書について相談することができる場所です。図書館の本を読んで、読書の楽しさを知り、多くの本から生きる力を育んでもらうために、図書の充実を図り、地域や学校、幼稚園、保育園と連携をとりながら読書推進に努めていきます。

	取 組	内 容
1	良書の収集・保存と蔵書情報の提供	<p>①子どもに関係する各施設関係者、子どもやその保護者、読み聞かせボランティアなどから、選書についての要望を積極的に聞き進めます。</p> <p>②子どもたちに伝えたい、残したい名著を選定し保存します。また読み聞かせに適した大型絵本や紙芝居の収集に努めます。</p> <p>③年齢に応じた活用しやすい「パスファインダー」(※28)を作成します。</p>
2	読書関連イベントと講座の開催	<p>図書館に関心を持ってもらい、読書の楽しさを伝えるため、各種イベントや講座を開催します。</p> <p>夏休みに読み聞かせの特集、絵本づくり、工作等を行います。また、大人数で参加ができる絵本ライブや人形劇等の催事の開催や、わらべうた講座の開催、子どもがおすすめる本の紹介、手づくり絵本の展示発表などを行います。</p>
3	「こどもの読書週間」の啓発と「かにかっ子だより」などによる読書活動情報の発信	<p>①「こどもの読書週間」を啓発するため、チラシやポスターを各公共施設に配布し、図書館において特別イベントや特別展示を行い、読書への関心を促します。</p> <p>②幼児・小学生向けに「かにかっ子だより」を毎月発行し、行事やおすすめる本の紹介をします。</p> <p>③乳児の保護者向けに「ちびっこかにかっ子だより」を配布します。</p>

(※28) 「パスファインダー」

特定のテーマについて調べる際に、文献や情報の探し方を1枚のシートにまとめたもの。

	取 組	内 容
4	ホームページや「すぐメールかに」、その他の配信による啓発	<p>①ホームページの「こどもページ」において、子どもたちの学習に役立ち、興味・関心を引くような内容を発信します。</p> <p>②「すぐメールかに」の中にある「図書館だより」で適時に図書館情報を発信します。</p> <p>③その他新たな情報手段の使用や、チラシ等の配布先や配布方法を検討し、より効果的な情報発信を推進します。</p> <p>④各種の情報発信手段や情報入手場所についてまとめたチラシの作成を行い、情報入手を分かりやすくします。</p>
5	「かにっ子タイム」「ちびっこかにっ子タイム」の充実	<p>①「かにっ子タイム」でボランティアによる読み聞かせを開催し、絵本に親しむ機会を提供します。また、新たな情報発信方法により、PRを強化します。</p> <p>②「ちびっこかにっ子タイム」でボランティアにより保護者が参考になる読み聞かせのやり方や対象年齢に適した絵本を紹介します。また、新たな情報発信方法を実施するとともに、「赤ちゃんタイム」をさらにPRすることによって、「ちびっこかにっ子タイム」の利用者増加を図ります。</p> <p>●かにっ子タイム参加者数</p> <p>平成30年度 <u> </u> 現状値 1,841人</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 1,900人</p> <p>●ちびっこかにっ子タイム参加者数</p> <p>平成30年度 <u> </u> 現状値 968人</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 980人</p>
6	「赤ちゃん絵本事業」「赤ちゃんタイム」など乳幼児の保護者への支援	<p>①「赤ちゃん絵本事業」を、毎月実施されている保健センターの乳児健診時に出向いて行います。</p> <p>②「赤ちゃんタイム」を「ちびっこかにっ子タイム」に合わせて行い、保護者がゆっくりと本を選べる場を提供します。</p>

	取 組	内 容						
7	ボランティア（ブックサポーター等）の育成と支援	<p>①市民を対象とした読み聞かせ講座を開催し、家庭での読み聞かせのコツを学習してもらうとともに、ボランティアとして図書館等で行われる読み聞かせに参加協力してもらう人材を養成します。</p> <p>②既に読み聞かせを行っている各所のボランティアを対象に、さらに読み聞かせの技術を向上させる講座を開催します。</p> <p>③図書館等読み聞かせボランティアの情報交換の場として、ボランティア交流会を開催し、課題解決や技術向上と連携協力体制の構築をめざします。</p> <p>●図書館のボランティア登録数</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>現状値</td> <td>34 人</td> </tr> <tr> <td>令和 6 年度（5 年後）</td> <td>目標値</td> <td>50 人</td> </tr> </table>	平成 30 年度	現状値	34 人	令和 6 年度（5 年後）	目標値	50 人
平成 30 年度	現状値	34 人						
令和 6 年度（5 年後）	目標値	50 人						
8	中高生が利用しやすい図書の選書と展示	<p>①中高生が好みそうな図書や利用が期待される図書を選書し、蔵書の充実を図ります。</p> <p>②ヤングアダルトコーナーについて、目を引くポスターを作成し、本が探しやすい表示や本の配置を工夫します。</p> <p>③中高生向けに興味を引く特集コーナーを作り、おすすめ本を展示します。</p> <p>④中高生を対象とした「ブックトーク」（※29）や「ビブリオバトル」（※30）、講座等を企画、実施します。</p> <p>⑤中高生向けのおすすめ本リストや図書館情報を掲載したポスターやチラシを作成し、各学校等へ配布します。</p> <p>⑥中高生の図書館見学、職場体験、ボランティア活動を積極的に受け入れます。</p> <p>●中・高生の貸出冊数</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>現状値</td> <td>12,827 冊</td> </tr> <tr> <td>令和 6 年度（5 年後）</td> <td>目標値</td> <td>16,000 冊</td> </tr> </table>	平成 30 年度	現状値	12,827 冊	令和 6 年度（5 年後）	目標値	16,000 冊
平成 30 年度	現状値	12,827 冊						
令和 6 年度（5 年後）	目標値	16,000 冊						

（※29）「ブックトーク」

あるテーマに沿って、何冊かの様々なジャンルの本を順序だてて紹介すること。聞き手がその本に興味を持ち、読書意欲を起こさせる活動。

（※30）「ビブリオバトル」

複数の発表者が読んで面白いと思った本を各自 5 分間の持ち時間で紹介する。それぞれ発表後、質疑応答を行い、参加者全員でどの本が読みたくなったか投票を行い、最も多く票を集めた本がチャンプ本となる。

	取 組	内 容
9	障がい児や外国籍児童・生徒向けの図書の充実	<p>①障がいのある子どもに提供できる視聴覚資料や点字絵本、文字の少ない絵本などその障がいに応じた図書の充実に努めます。</p> <p>②外国籍の児童・生徒に向けて多言語の図書の充実に努めます。</p> <p>③学校の障がい児や外国籍児童・生徒の担当教師と連携を密にし、適切な選書のアドバイスをもらうとともに図書館の図書の活用を促します。</p> <p>●障がい児支援本蔵書数</p> <p>平成30年度 <u> </u> 現状値 <u> </u> 111 冊</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 <u> </u> 500 冊</p> <p>●外国語絵本蔵書数</p> <p>平成30年度 <u> </u> 現状値 <u> </u> 720 冊</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 <u> </u> 1,000 冊</p>
10	電子書籍の導入の検討	<p>電子書籍は、図鑑や音声つきのものなど電子書籍ならではの利点を生かした図書があり、子どもたちの学習に役に立ち、中高生の利用も期待できるため、導入に向けて情報収集を行い、計画的に進めます。</p>
11	「パック詰めサービス」と「気軽に使える絵本パック詰めサービス」の提供	<p>①「パック詰めサービス」について、関係団体に要望を聞き、パックの種類を増やして対応します。</p> <p>②「気軽に使える絵本パック詰めサービス」の未実施の施設に対しサービスの内容説明を行い、利用を促します。</p> <p>●パック詰めサービス貸出件数</p> <p>平成30年度 <u> </u> 現状値 <u> </u> 36 件</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 <u> </u> 50 件</p>
12	学校等への移動図書館の巡回	<p>移動図書館について、市内全小学校へ巡回を実施します。巡回スケジュール等について、学校と連携を取り、情報の周知やPRの協力を依頼します。</p> <p>なお移動図書館の小学校への巡回については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年度より中止しています。また移動図書館車両が老朽化（32年経過）していることもあり、令和5年11月の車検時をもって廃車予定です。</p>

	取 組	内 容
13	関係機関との連携・協力	各関係機関、関係団体、関係者との連携・協力を図るため、図書館から積極的に働きかけをし、相互の図書関連事業の内容を理解し合った上で、図書館のサービスの活用方法を協議する場を設けます。
14	学校との連携	①学校の「調べ学習」や「並行読書」に役立てるよう、学校側と調整を行い、授業内容や行事内容に応じた図書を購入します。 ②その他、学校と読書活動推進に関する協議を行い、相互に連携し合うことによって新たな取組を考え実施します。
15	岐阜医療科学大学との連携	岐阜医療科学大学図書館と相互協力の覚書に基づき、高校生向けに大学の専門書の貸出し、大学生による絵本の読み聞かせ等を実施します。
16	子どもの読書活動に関するアンケートの実施	①アンケートの内容について精査、見直しを行います。 ②アンケート対象者について対象学年や対象校の拡大を図ります。 ③対象者について子どもたちだけでなく、関係機関、関係団体、関係者にも広げ、アンケートへの協力を依頼し、毎年1回実施します。

4-4. 学校における子どもの読書

学校は、それぞれの学習段階において、様々なことを学び、考える力を育て、社会性を育む場所です。学校で本と出会い、学び、豊かな読書活動を体験することは、自ら学び考える力をつけ、豊かな感性と創造力を育てることになります。子どもが生涯にわたって、本に親しみ、読書の好きな子どもたちを育成するために、各学校に応じた取組をしていきます。

	取 組	内 容
1	読書習慣の確立と読書指導の充実	①授業に関連した図書を紹介することによって、「調べ学習」の習慣を身につけさせます。また、そこからさらに発展した形として「並行読書」を勧めて本とふれあう機会を増やします。 ②子どもの発達段階に応じた図書の選定をし、必読書や選定図書の紹介をし、図書室内に特設コーナーを設けます。

2	図書館との連携による学校図書館の充実	<p>図書館と情報共有を密に行うことによって、図書館から必要とする図書の提供を受け、学校図書館としての機能を充実します。</p> <p>①情報共有の内容については、授業内容に関するものや校内行事に関するものなど、選書に関し図書館と協議を行います。</p> <p>②提供を受ける図書について、図書館の「団体貸出」や「パック詰めサービス」などを活用します。</p> <p>③図書館のリユース本を活用します。</p> <p>●パック詰めサービス利用件数</p> <p>平成30年度 現状値 36件</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 50件</p>
3	朝読書や昼読書などの実施	<p>校内で一斉に時間を設けて読書に取り組むことは、自然に本に親しむ習慣を身につけるには最良の方法であることから、各学校で工夫を凝らして子どもたちの興味が増す方法で実施します。</p>
4	ボランティアやPTA母親委員の協力による読書推進	<p>小学校で行われている読み聞かせの時間に、地域のボランティアやPTAの役員を始めとする保護者に参加協力を依頼します。また図書館が実施する読み聞かせ講座への参加を促します。</p>
5	読書に関する行事の実施	<p>図書館祭りや読書週間に合わせた行事の中で、各種の読書に関するイベントを企画実施します。</p> <p>例；図書委員による読み聞かせ、放送による本の紹介、子ども同士の本の紹介、読書分類ビンゴゲーム、読書クイズ、ポップづくり、スタンプラリー、ビブリオバトル、読書を取り入れた宿題等。</p>
6	学級文庫や特設文庫などの設置と充実	<p>各学級に文庫を設置し、身近に本とふれあえる環境づくりを行います。また各学級で定期的に本を巡回させるなど本の有効利用を図り、図書館のリユース本の活用を行います。</p>
7	学校司書による読書環境づくりの推進	<p>司書教諭と学校司書で協力し合って読書推進のための取組を検討します。</p> <p>学校司書の知識・技術の向上と情報交換のため、図書館本館において学校司書会議を毎月開催し、図書館司書との情報交換も併せて行います。</p>

4-5. 幼稚園・保育園における子どもの読書活動の推進

幼稚園・保育園は、子どもが初めて集団生活をする場であり、多くの出会いの中から様々なことを学び、成長していく大切な場です。

乳幼児期において、絵本と出会い、本を見ることを楽しみ、絵に親しむことで、豊かな感性を育てます。幼稚園・保育園において、乳幼児がお話や絵本の読み聞かせを楽しみ、親しむ活動を積極的に行いながら、豊かな心を育てていきます。

	取組	内容
1	園の本等の充実	<p>①絵本や紙芝居について選書に配慮し蔵書を充実します。</p> <p>②図書館の「団体貸出」や「気軽に使える絵本パック詰めサービス」、「大型絵本の貸出」などの利用により、図書を提供を充実します。</p> <p>③図書館の「リユース本」を活用します。</p> <p>●団体貸出利用冊数</p> <p>平成30年度 現状値 75冊</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 5,000冊</p> <p>●気軽に使える絵本パック詰めサービス箇所数</p> <p>平成30年度 現状値 0箇所</p> <p>令和6年度（5年後）目標値 25箇所</p>
2	読み聞かせやお話の時間の充実	<p>園のカリキュラムに職員による読み聞かせやお話の時間を設けるとともに、休み時間やお迎えを待つ時間などでも、読み聞かせを実施します。</p> <p>保護者や地域のボランティアの協力により読み聞かせを行います。また図書館が実施する幼児の発達段階に合った絵本の選択や読み聞かせの技術的な方法に関する講座への参加を促します。</p>
3	本を貸し出し、親子で本に親しむ機会づくりの推進	<p>親子で絵本を読めるよう環境を整え、気に入った絵本を借りる等、保護者により一層の活用を促します。</p>